

群馬県 第10回「JLTサポート会議

2021/1/25

教科学習を通して教科内容と日本語を学ぶために
～取り出し指導、入り込み指導、担任との連携～

山梨県 甲府市立 大国(おおくに)小学校
教諭 今澤 悌(やすし)

yasushi.imazawa@gmail.com

日本語指導の5つのプログラム

- ① 「**サバイバル日本語**」プログラム
- ② 「**日本語基礎**」プログラム
- ③ 「**技能別日本語**」プログラム
- ④ 「**日本語と教科の統合学習**」プログラム
- ⑤ 「**教科の補習**」プログラム

生活言語能力と学習言語能力

(Cummins,1984,1986)

「基本的対人伝達能力」(Basic Interpersonal Communicative Skill: BICS)

→「**生活言語能力**」

- ◎通常の生活場面で必要とされる力
- ◎ 自然習得が可能
- ◎ 1～2年で習得

学校での教科学習に必要な言葉の力

「認知学習言語能力」(Cognitive Academic Language Proficiency:CALP)

→「**学習言語能力**」

- ◎ 抽象的、概念的なことを表し、高度に認知的な能力を発達させるのに必要な力
- ◎ 自然習得は不可能、組織的な学習が必要
- ◎ 習得には5～7年が必要

日本語指導のコース設計

(文科省「外国人児童生徒受け入れの手引き」より)

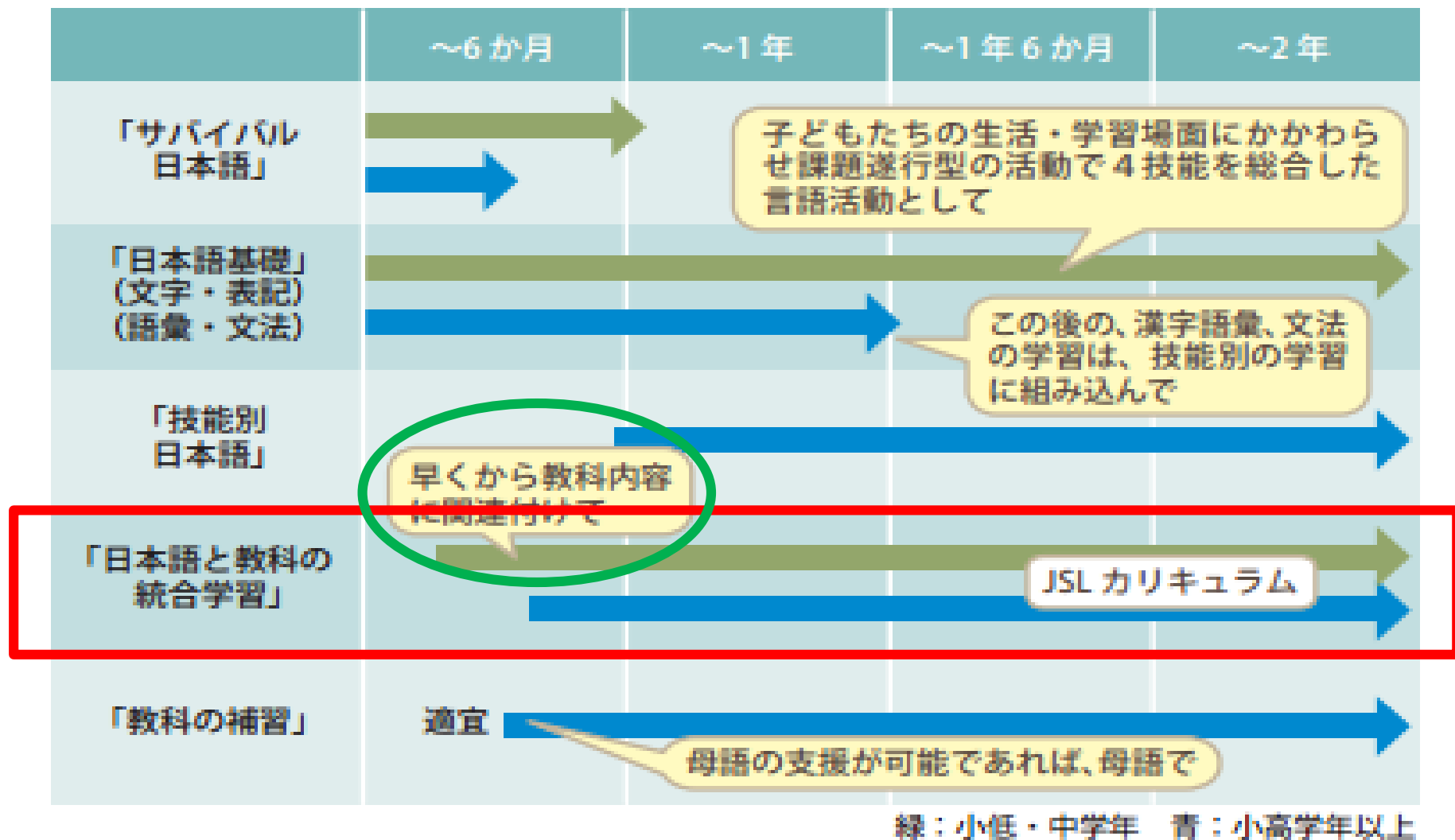


図3-3：コース設計 プログラムの組み合わせ例

■ 母国で学習済み(習得済み)

=「アルカリ性」の
意味や概念を獲得している。

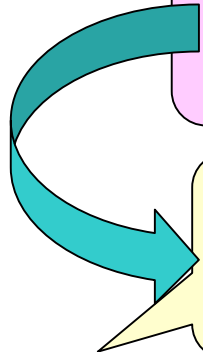
既習の母国語を
日本語に置き
換えるだけで○

■ 母国で未習(習得していない)

=「アルカリ性」の
意味や概念を獲得していない。

既習の母国語を
日本語に置き
換えても ×

「アルカリ性」の意味や概念を習得
(獲得)していく必要=教科としての学習が必要



日本語の力が
十分でない児童...

「 日本語と教科の
統合学習 」

電磁石にはどんな性質があるのだろうか。

コイル…。電流…。電磁石…

日本語の力

「~~~~」(教科学習で使う表現)

教科語彙や学習活動で使われる表現を学びながら
学習活動に参加できるように



教科の力

- 電磁石は、コイルに電流が流れている間だけ、磁石の性質をもつようになります。
- 電磁石には、N極とS極があります。
- コイルに流れる電流の向きが反対になると、電磁石のN極とS極が反対になります。

学習活動を通して学び、考え、表現することで
「教科に使われる日本語」と共に「教科の力」が身についていく。→知識・技能、認知的な力、思考力、表現力等の獲得

= **日本語と教科の統合学習**

数字や四則計算の読み方、実験器具
など教科語彙が分かればいいのか？

対象者は「子ども」=教科学習が終了していない

教科としての力、教科を通して身につけられる力 =
知識・技能、思考力(比較、予想、類推、分類・・)、
判断力、表現力、などの力を身につける必要がある。

教科語彙や学習活動で使われる表現を学びながら
学習活動に参加できるように。

それらの学習活動を通して学び、考え、表現することで
「教科に使われる日本語」と共に「教科の力」が身について
いく。 → 認知的な力、思考力、判断力、表現力の獲得

= 教科と日本語の統合学習

「チョウを育てよう」(理科 3年)

<在籍学級の目標>

いろいろな昆虫の体を調べて比較し、昆虫の体のつくりの決まりに当てはめながら、昆虫かどうかを確認し自分の考えを表現できる。

- ◎ 比較する。学習活動を通して、「理科の知識・技能」「比較する力」、「確認する力」、「表現する力」を育てる
- ◎ 確認する。
- ◎ 表現する。

これらの「学習活動に参加するために必要な日本語の力」も育てる。

- ◎ 予想を立てる。(体験)
- ◎ 実験をする。(探求)
- ◎ 結果をまとめ考察する。(探求)
- ◎ 結果と考察を発表する。(発信)

「理科の授業の流れ」も体験しながら学び方を学ぶ。

◎「こん虫」の定義を知る。

◎比較する力を育てる。

教科の力

=日本語と教科の
統合学習

教科の目標を達成するための
日本語の力



文科省「JSLカリキュラム」

JSL: Japanese as a Second Language

第2言語としての日本語

- **教科の学びに参加する日本語の力を育む**ため開発されたカリキュラム
- **教室での学習活動に参加するための日本語の力**（日本語で学ぶ力）を育てる。
- 「言葉の知識・技能の獲得」のみならず、**認知的な発達、ものの見方や考え方、社会性**なども育てていく。

□ 授業づくりのステップ

① 在籍学級の授業の分析、学習内容の決定

② 目標の設定

◎ 教科の目標、日本語の目標 を考える

③ 計画、展開の構想

◎ 実施時期：先行・並行・後行、時数の決定
(在籍学級の学習との関わりで)

④ 支援（理解支援、表現支援等）の工夫

目標を決める

① 教科の目標

在籍学級の目標を目やすに、
子どもの実態を考慮して決める。

② 日本語の目標

= 教科の目標を達成するためには、
どんな日本語の力が必要か

② 日本語の目標

コイル……。電流……。電磁石……。

「~~~~」(教科学習で使う表現)



電磁石にはどんな性質があるのだろうか

① 教科の目標

- 電磁石は、コイルに電流が流れている間だけ、磁石の性質をもつようになります。
- 電磁石には、 $\overset{+}{N}$ 極と $\overset{-}{S}$ 極があります。
- コイルに流れる電流の向きが反対になると、 $\overset{+}{N}$ 極と $\overset{-}{S}$ 極が反対になります。

目標を明確に立てる

小6「わたしたちのくらしと日本国憲法」

① 教科の目標

「日本国憲法を理解し、私たちの生活に
どのようにかかわるかを理解する。」

教科の目標を達成するためには、
どんな日本語の力が必要か

その日本語を使って、「何をできるようにさせる」
のかを明確に

② 日本語の目標

目標にする語彙や表現を具体的に

「～は～と つながりがあります。」の表現を使って、
日本国憲法等の法やきまりと、自分たちの生活との
関係を捉えることができる。」

活動単位(AU)と、AUカード

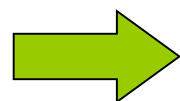
☆AU=「学習活動のまとめり(単

これらの活動を通して認知的な力を育てていく。

観察する 情報を関連づける 分類して考える

比較して考える 分かったことを表現する 判断する 等

☆AUごとに、参加を促す支援(働きかけ)と、子どもの反応をどのような表現で行うかを示したものの。



AUカード

そのために必要な、日本語の力

AU: 比べながら観察する① 「比較」		
よく使う言葉→比べる、違う		
教師・指導者の発問・指示	子どもの発言・反応	
本形	① ~と~を比べてみよう。	○はい。(観察する)

理科AU

R-161	解結を説明する	~と、どうなるか	~と、~なる、する	直列につなぐと電流が強くなる
-------	---------	----------	-----------	----------------

計画

「日本語と教科の統合学習」の授業を位置づける。

2学期〇月の在籍学級国語科学習単元は「〇〇〇〇」。説明文か。担任の先生に授業計画を聞いたけど、本文の内容理解が難しいだろうな。。

在籍学級の授業の分析

在籍学級の授業の前に1時間先行して、取り出し指導で本文の内容や難しい語彙を学習しておこう。

取り出し授業(先行、並行、後行)の計画

在籍学級での授業: 在籍学級担任との連携で(場合によっては入り込み)

こちらで用意したワークシートと語彙カードを持たせて、3時間 在籍学級で授業を受けて。。

最後の発表活動の前にまた取り出しで1時間、発表の原稿を書かせよう。
最後の1時間は在籍で発表できるように！



学習活動を考える

- ◎ **在籍学級と同じ学習活動**を行う。
(その子の日本語の力や学力に応じて)

- ◎ 在籍学級の授業に参加するために必要な
学習スキルや、知識に焦点化した学習活動
(在籍学級の授業とは異なった学習活動)

① 理解（を促す）支援

◎ 具体的な手だて

- 実物・写真等の提示
- 図式化
- ワークシート
- リライト教材
- 紙芝居
- ペープサート
- 絵本化 等

② 表現（を促す）支援

◎ 具体的な手だて

- 表現モデル、モデル文の提示
- 穴埋め文で記述を支援
- 対話で引き出し文章化 等々

参考：JSLカリキュラム中学校版より

理解支援

- ◎ **言い換える**： 生徒が知っている言葉や母語などで言い換える
- ◎ **視覚化する**： 実物、模型、絵、写真、図などを利用。色分け。
- ◎ **例示する**： 具体的な例を示す。
- ◎ **比喩を利用する**： 生徒が知っているものにたとえる。
- ◎ **対比させる**： 対になることばや事柄を示す。
- ◎ **明示する**： 課題、手順、見通し、流れなどを明確に示す。
- ◎ **簡略化する**： いくつか分割、重要な点だけに絞り簡略化。
- ◎ **整理する**： 分かりやすく整理して示す。
- ◎ **補足する**： 背景知識やことば、情報などを補う。
- ◎ **関連づけ**： 事柄の関係性（因果関係、順次性等）を示す。
- ◎ **既有知識を活性化する**： 先行経験、既習知識に関連づけて説明。

参考：JSLカリキュラム中学校版より

表現支援

- ◎ **選択肢を示す**： 語彙や表現の例を示し、選ばせる。
- ◎ **表現方法を示す**： ことば以外の表現方法（絵、写真、図等）、多様な表現方法での表現を促す。
- ◎ **モデルを示す**： 文や文章レベルで、発表や作文のモデルを示す。
- ◎ **キーワードを示す**： 内容に関するキーワードを示し、表現内容を構成させる。
- ◎ **対話で引き出す**： やりとりで表現したい内容を引き出し、文章化する。
- ◎ **母語で表現させる**： 母語で表現させ、それを日本語で表現させる。

※「教科と日本語の統合学習」授業のイメージ

理科:「乾電池のつなぎ方」

教科の目標

- ・ 乾電池の向きを変えると、電流、モーターの回る向きが変わることが分かる。

学習活動

予想を立てる

「～すると～になる」と思います。

実験図

実験をする

「～するとどうなった？」
「～すると～になった！」

やりとり

結果をまとめる 考察する

「～すると～になった。」
「このことから、～ということがわかる。」

表現モデル

ワークシート

結果と考察を発表する。

「～すると～になりました。」
「このことから、～ということがわかりました。」

表現モデル

身につけさせたい語いや表現（日本語の目標）を学習活動の中に埋め込む。

学習活動に参加する中で、教科の力を養い、同時に日本語を学び、繰り返し使って使うことにより定着していく。

限られた時間の中で(日本語指導担当は)

週1~2回、1~2時間の中で何ができるか..

子どもたちは、ほとんどの時間、
在籍学級で授業を受けている

= **在籍学級の授業を、**

いかに生きた学びの場にしていけるか

在籍学級の授業中、「お客さん」でいる時間をなるべくなくし、
その時間を大切な学びの時間にしていく支援を。

⇒ **「在籍学級の学び」に生きる指導を**

- ・ 在籍学級の授業が、少しでもわかるように
- ・ 在籍学級の授業に、少しでも参加できるように

在籍学級の中で(担任・教科担任は)

学級(三十数人)の中で何ができるか・・・

子どもたちは、ほとんどの時間、
在籍学級で授業を受けている

= 在籍学級の授業を、

いかに生きた学びの場にしていけるか

在籍学級の授業中、「お客さん」でいる時間をなるべくなくし、
その時間を大切な学びの時間にしていく支援を。

⇒ 「在籍学級の授業」の中で、その子に応じた「学び」を

- ・ 少しでもわかるように・・・
- ・ 少しでも参加できるように・・・

日本語指導担当と
在籍学級・教科担任
との連携で

在籍学級の授業で行えることは・・・

「お客さん」状態から

→在籍学級を**豊かな、生きた学びの時間**へ

- ① 教師が**授業で使う言葉に配慮**する。
→ フォリナートーク、やさしい日本語
☆ わかりやすいことばで、ゆっくり話しましょう！
- ② 本時の目標に**関係のないことばの負荷を下げる**。
※ ワークシート、資料、板書等の漢字にルビをふる
※ 目標に沿ったことば以外は「やさしい日本語」で 等々
- ③ 具体物や絵、図、表など、**言葉以外の情報を豊富に**。
- ④ 大切な言葉、発問、キーワード等を板書やカードで**視覚化**
※ **線や色**で分かりやすく。
- ⑤ **個に合った課題**や活動を準備。

(ワークシート、ペアワーク・・・)

= **在籍学級の授業を、
いかに生きた学びの場にしていけるか**

⇒ **「在籍学級の授業」の中でできる ことばの支援を**

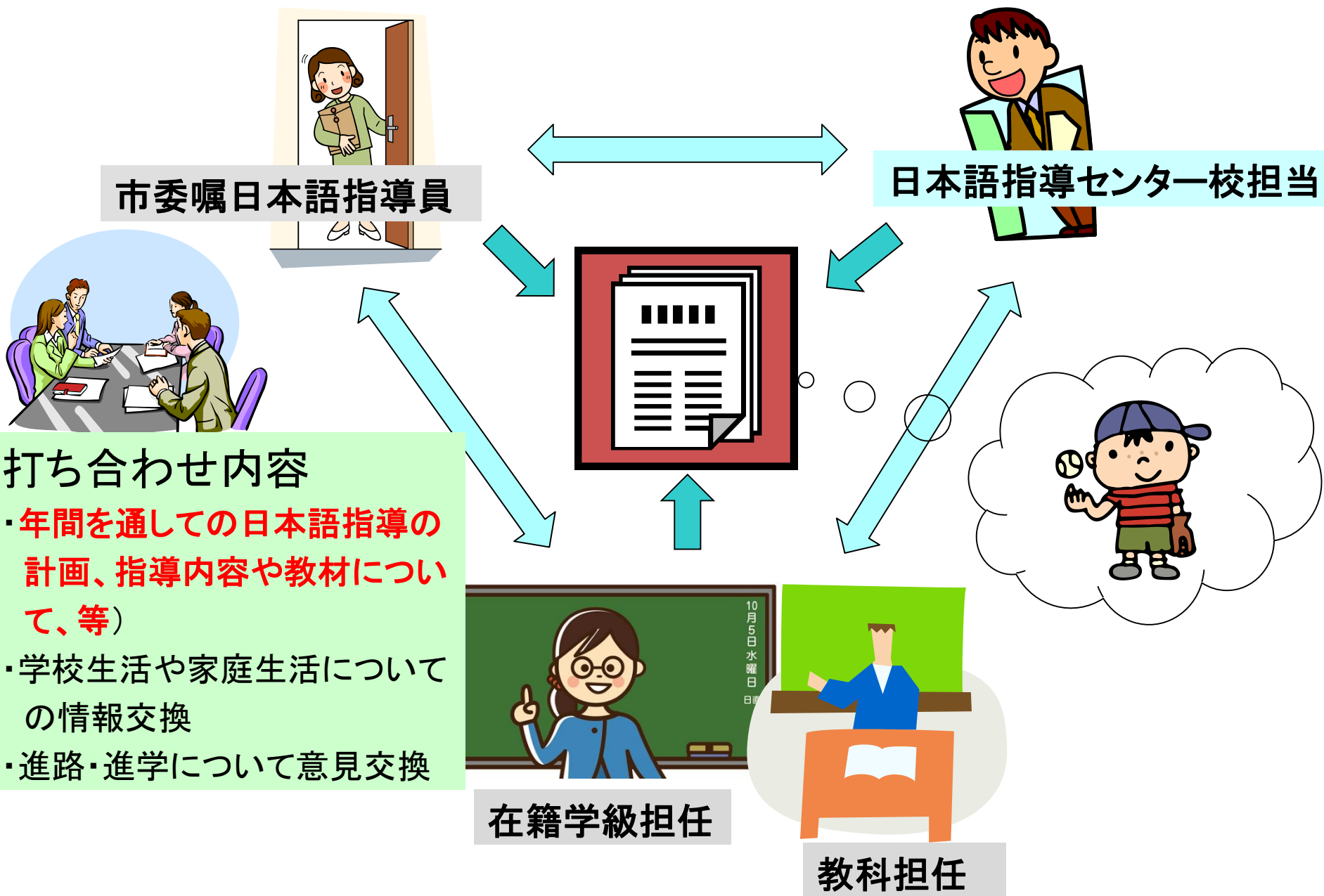
- ・ 少しでもわかるように…
- ・ 少しでも参加できるように…

**在籍学級担任として
「ことば」の「ハンデ」を補
う支援（理解のために、
表現のために、…）**

**連
携**

**日本語指導担当として
「在籍学級の学び」への支
援（事前の知識、在籍の授
業で使える教材の準備…）**

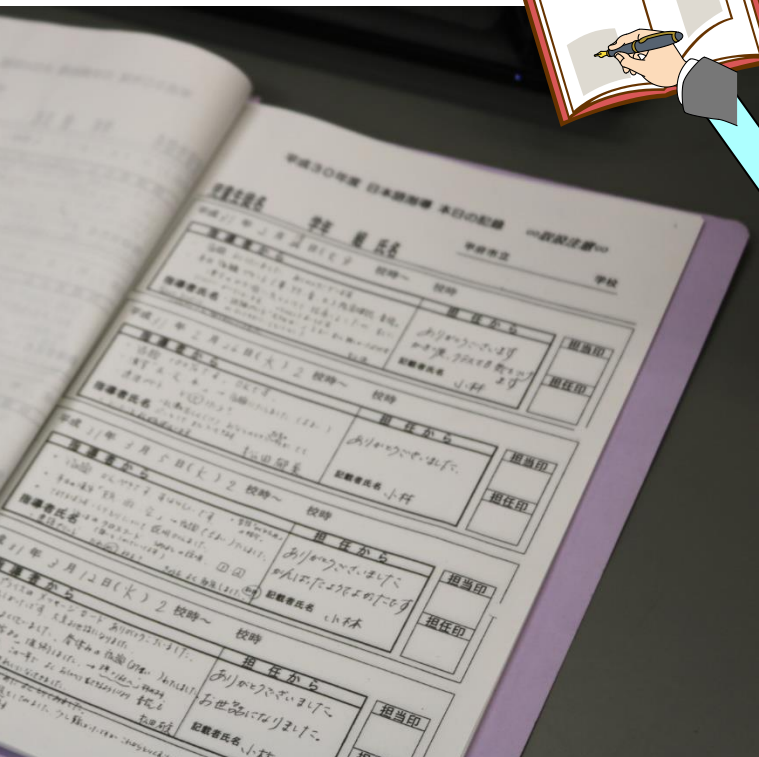
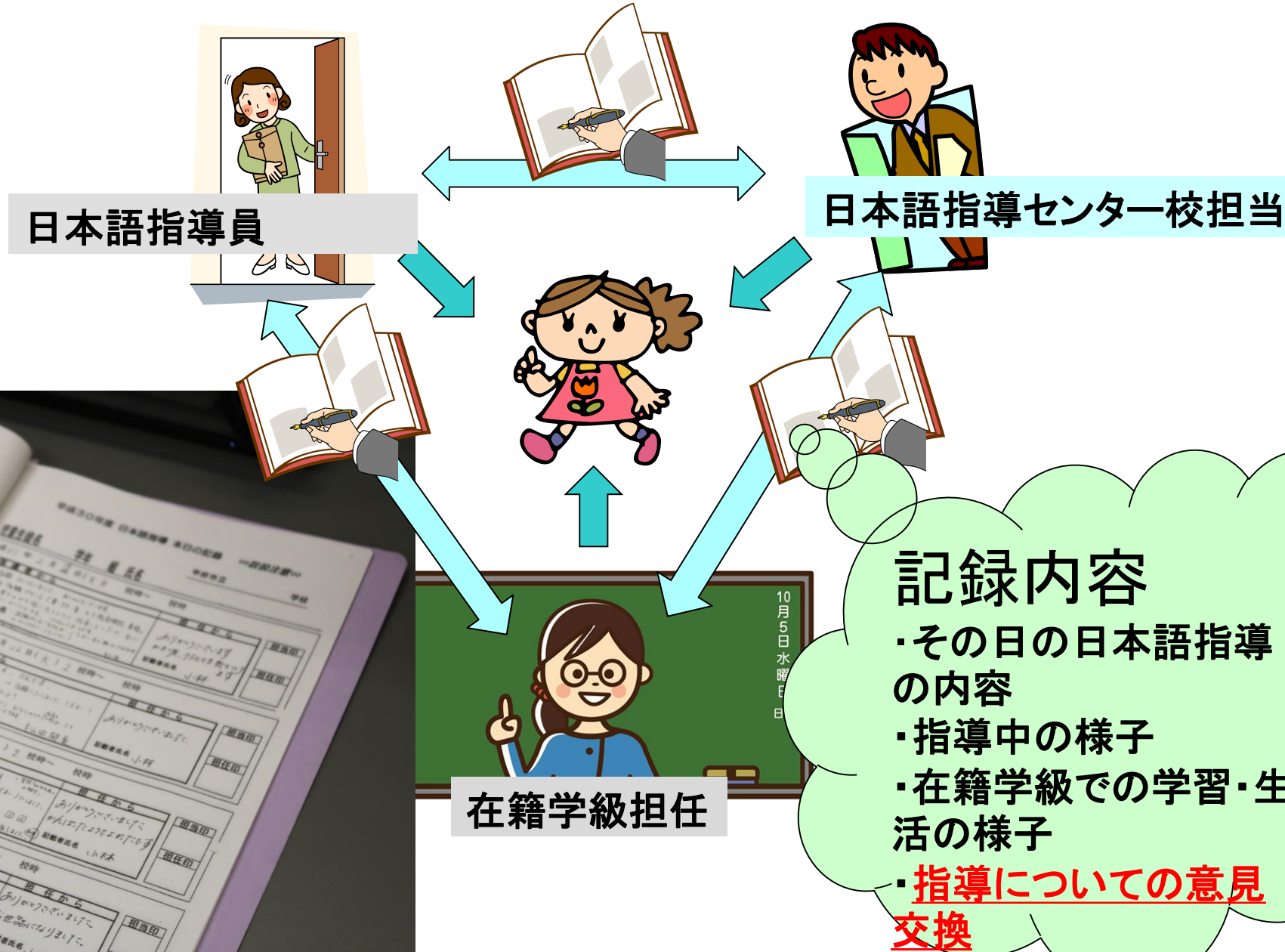
在籍学級担任との連携:「個別の指導計画」作成を通して



打ち合わせ内容

- ・年間を通しての日本語指導の計画、指導内容や教材について、等)
- ・学校生活や家庭生活についての情報交換
- ・進路・進学について意見交換

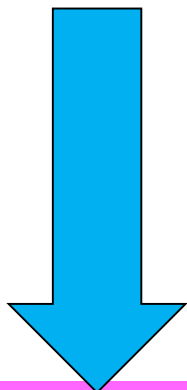
担任との連携：日本語指導の「記録」を通して



国語科小3「三年とうげ(物語文)」光村図書

① 教科の目標

「気持ちの**変化**を想像できる。」



教科の目標を達成するためには、
どんな日本語の力が必要か

その日本語を使って、「何をできるようにさせる」
のかを明確に

② 日本語の目標

目標にする語彙や表現を具体的に

「はじめ～だったおじいさん(の**気持ち**)が、だんだん(少しずつ、ゆっくり)～になりました(変わりました)。」
の表現を使って人物の**気持ちの変化**をとらえ、それを表現できる。

「読む」を支援する

「取り出し」でも
「入り込み」でも

「内容理解」へのサポート

- ルビ振り
- 紙芝居型本文、絵本
- 写真・絵カード(語彙カード)
- リライト
- 本文・さし絵のバラバラ並べかえ

どこに何が書いてあるのか、おおまかにでも分かるようにさせたい...

学習課題を考え、答えを導けるようにさせたい...

読解へのサポート

説明文: 「筆者の考え」をとらえるために

「問い」「答

物語文: 行動や発言が

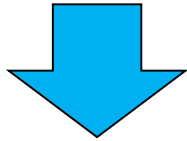
気持ちを

「自分で考える」ための支援
「学習活動に参加し、思考を促す」支援を!

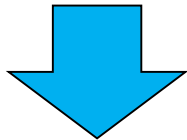
「読む」を支援する

「取り出し」でも
「入り込み」でも

「内容理解」へのサポート



読解へのサポート



表現へのサポート

分かったこと、思ったこと、
考えたことを発表したり、
ノートに記述したりできる
ようにさせたい・・・

発表・記述のためのモデルを示し、参考にさせる

- モデル文
- 表現モデル

「自分で考える」ための支援
「学習活動に参加し、
思考を促す」支援を！

「書く(話す・発表する)」を支援する

「取り出し」でも
「入り込み」でも

- 書くべき文章の構成を理解させよう。
- どこにどんな内容を書けば良いか明確にしてあげよう。
- どんな表現で書いたら良いか、モデルを示してあげよう。

◎(教科書・指導者作成の)モデル文を示し、自分が書くべき文章全体をイメージさせる。

◎モデル文をもとに、文章の構成や文章のどこの部分にどんな内容を書くのか、どんな表現を使って書けばよいか等を、やりとりをしながら子どもに考えさせ、分かったことを明示する。

◎分かったことをもとに、自分はどう書いたら良いかを考え(どんな構成・内容で書くか、どのような表現を使って書くか)表現させる。

「自分で考える」ための支援

「学習活動に参加し、思考を促す」支援を！